

令和6年度 徳島県立徳島中央高等学校【通信制課程】学校評価総括評価表

【令和6年度 徳島県立徳島中央高等学校学校経営方針】

1 本校の教育目標

(1) 基本目標

生命を大切にする心を育み、心豊かな人間を育成する。学ぶ意欲と熱意に応じて、多様な学習形態と学習機会を提供し、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができる定時制・通信制教育を展開する。

(2) 重点目標（中期目標）

- ① 基本的生活習慣を確立し、生徒一人一台端末を活用して、基礎学力を定着させるとともに、キャリア教育、体験的活動と教育的支援の拡充を図ることにより、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ② 人権教育、道德教育、安全教育を推進し、人権尊重の精神を尊び、自主的・自立的に行動できる人間を育成する。
- ③ 目標に向かって地道に努力する生徒を育成し、一人一人の生徒の良さを積極的に見つけ、伸ばしていく学校づくりに努める。
- ④ 学校運営のビジョンを教職員と保護者、地域や産業界の方々と共有し、互いにパートナーとして、連携・協働のもとに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を充実させていく。

2 本年度の重点目標

(1) 生徒の学びの充実

- ① 徳島県GIGAスクール構想の推進（教育DXを加速）
- ② 人権教育の充実（他者の思いや考えを的確に理解できる想像力を育成）
- ③ 特別支援教育の充実（特別な支援を必要とする生徒への対応）
- ④ 主権者、消費者、防災教育の充実（成人年齢引下げに対応した安全で安心な教育）

(2) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（わいせつ、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 次世代を見据えた人材育成（校内研修の充実とチーム学校として年代を超えた学び合い）
- ③ 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

(3) 学校の特色化、魅力化（目指す学校像）

- ① スクールポリシーの共有（生徒一人一人が主体的な学びに取り組むことを支援）
- ② 地域に開かれた学校（定期的な情報発信）
- ③ 生徒、保護者が学びたい、学ばせたいと思う学校（様々な体験活動を通じて豊かな人間性や社会性を育む）
- ④ 地域から信頼され、愛される学校（保護者、地域住民や学校運営協議等の意見を的確に反映させる）

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画		評価	総合評価	
1 生徒の 学びの 充実を 図る	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B	通信教育において、 生徒の実情、ニーズを 把握し、一人一人への きめ細かい教育支援が 展開されている。外部 機関の支援体制の構築 がなされている。
	①-1 「学習支援」制度の利用を促し、個に応じたより丁寧な学習指導を行うことで、基礎学力の定着と単位修得率70%以上をめざす。 (全年次)	①-1 学習状況通知を年8回送付し、状況を周知するとともに、学習支援が必要な生徒には、教科担任と担任が連携して個別に連絡し指導にあたる。 (全年次)	①-1 学習状況通知を8回送付し、生徒・保護者への状況周知に努めた。学習支援制度を多くの生徒が利用したが、単位修得率は64%であった。 (B) (全年次)	①学習支援制度の活用はできたが、単位修得率は目標を下回った。 ICT活用推進については研修により、通信制に適した教材作成の研究を推進できた。 (教務)	①-1ICTや学習支援制度の活用により、生徒の計画的な自学自習のサポートに努め、単位修得率の向上を図りたい。 (全年次)
	①-2 「自学自習」をサポートするため、生徒1人1台端末の活用を促進し、生徒の面接指導満足度を90%以上にする。 (教務)	①-2 教員のICT活用能力向上及び教材作成等を支援するため、ICT研修を前期後期各2回以上実施する。また、生徒への端末使用についての説明会を年2回行う。 (教務)	①-2 ICT研修を年間で3回行い、教員のICT活用能力向上に努めた。生徒1人1台端末の端末使用についての説明会は年2回行い、生徒の面接指導満足度は満足が80%、ほぼ満足が20%であった。 (A) (教務)	進路指導に対する評価が高く素晴らしい。 広域通信制高校などが県内でも開設されてきているので、より選ばれる学校に発展してほしい。	①-2通信制の教職員の実態やニーズにあったICT研修を継続して実施し、限られた時間でのスクリーンが効果的に行えるように務める。 (教務)
	①-3 電子黒板や1人1台端末を利用し、生徒の適性の把握や情報収集に努め、年間1回以上進路資料の発行とキャリアガイダンスを実施し、生徒の進路指導満足度を、80%以上にする。 (進路・厚生)	①-3 進路資料の発行やキャリアガイダンスを通して情報提供を行い、個別面談や三者面談を生徒に対して積極的に実施し、適切な助言を行う。 (進路・厚生)	①-3 進路資料の発行やキャリアガイダンスを行ったり、三者面談や進路個別相談を積極的に実施した結果、生徒の進路指導満足度が、94.7%に達した。 (A) (進路・厚生)	進路指導については、担任と連携して必要な情報提供や個別指導を丁寧に行った。進路情報はMetaMojiで配布した。 (進路・厚生)	①-3学校評価アンケートでは、進路指導に対する保護者の満足度が83.3%であった。次年度は、更に保護者との連携を深め、満足度90%以上を目指したい。 (進路・厚生)
	② 人権感覚の育成や人権に関する知的理解を深めるため、人権映画会、人権講演会を各1回実施し、「人権通信」を年2回発行する。 (人権・特別支援)	② 人権に関する行事の周知を複数の方法で行い、参加を促すとともに、SHR等で「人権通信」を活用して身近な人権課題を取り上げ、人権尊重の精神の涵養に努める。 (人権・特別支援)	② 「徳島中央通信」「今日のお知らせ」等で行事を周知し、講演会に25名、映画会に20名参加した。「人権通信」は7月と12月に発行した。生徒アンケートでは100%、保護者アンケートでは94%の満足度であった。 (A) (人権・特別支援)	②アンケートや感想文から、人権感覚の育成や人権に関する知的理解を深めることができた。 (人権・特別支援)	②生徒の実態に応じた人権啓発が実施できるような行事や講演会、HR活動等の企画を行うとともに、機会を捉えた情報発信を行う。 (人権・特別支援)
	③ 年2回発行する「人権通信」に、特別支援教育の内容を記載するとともに、MetaMojiClassRoomを活用した啓発に努める。 (人権・特別支援)	③ 特別支援教育コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや外部機関と連携し、個別最適な学習支援について研究する。 (人権・特別支援)	③ 「徳島中央通信」MetaMojiClassRoom等において、特別支援教育について啓発を行うとともに、生徒がスクールカウンセラーや外部機関に相談しやすい環境作りに努め、教育相談についての生徒アンケートでは97%、保護者アンケートでは94%の満足度であった。 (A) (人権・特別支援)	③外部機関を含めた支援体制を構築し、幅広く丁寧な指導・支援を行うことができた。 (人権・特別支援)	③今後も生徒一人一人に応じた支援について研究し、生徒が悩みを相談しやすい環境づくりに務めるとともに、外部機関との連携を今後とも進めていきたい。 (人権・特別支援)
	④ 生徒アンケートにおいて、学習や活動を通し「政治や選挙への関心が高まった」と回答する率が50%以上をめざす。	④ 「徳島中央通信」に主権者教育や消費者教育に関する記事を載せるとともに、主権者教育講演会を開催し、啓発に努	④ 記事掲載や外部講師招聘による講演会を実施した。生徒アンケートにおいて、学習や活動を通し「政治や選挙への関	④主権者教育や消費者教育に関する記事掲載や講演会実施の他、公共お	④「政治や選挙への関

	(主権者教育)	める。(主権者教育)	心が高まった」と回答した率が「満足」と「ほぼ満足」合わせて55.3%であった。 (B)(主権者教育)	び時事教養の教科指導でも政治や選挙について取り上げた。 (主権者教育)	心」を高める、という目標が素晴らしいと思う。	するとともに生徒会活動においてもさらなる啓発を行う。 (主権者教育)
--	---------	------------	---	--	------------------------	---------------------------------------

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
2 教職員の 資質向上 に努める	評価指標(数値目標)	活動計画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B	
	① 令和6年度コンプライアンス推進計画の推進テーマに基づき、わいせつ・ハラスメント行為の根絶徹底と不適切な指導・体罰の根絶徹底を図るため、コンプライアンス研修を年10回以上実施する。	①-1 コンプライアンス推進計画に基づいて研修を行うとともに、各種ハラスメントを許さない職場の雰囲気作りに努め、互いに認め合い支え合える職場環境を整える。(校務運営)	①-1 ICTを活用したアンケートを実施したり、職朝等の機会を捉えてコンプライアンス研修やミニ研修、周知等を実施し、互いに支え合える環境づくりに努めた。(B)(校務運営)	①-1研修ではICTを活用した意見収集とフィードバックを実施した。 (校務運営)	①職場の現状把握に努め、相談しやすい環境づくりを継続して実施する。コンプライアンスやメンタルヘルス等について、研修方法や内容の見直しを継続的に検討する。また、リスクマネジメント研修等を通して、法令遵守・服務規律遵守が自分や家族、職場や組織を守ることにつながることを意識づける。日常的な声かけ、面談を通して互いに支え合える、ウェルビーイングな環境づくりを更に推進する。 (校務運営)
		①-2 中央高校及びしらさぎ中学校と合同のコンプライアンス研修会、メンタルヘルス研修会を実施する。 (校務運営)	①-2 中央高校・しらさぎ中学校合同コンプライアンス研修会、メンタルヘルス研修会を各1回実施し、グループワーク等において課程や校種を超えた熱心な意見交換がなされた。 (A)(校務運営)	①-2全校の管理職で常に情報共有をし、協働しながら実態に即した研修会の立案、実施を行った。 (校務運営)	
	②-1 学校防災・救急救命・事故対応等の生徒や教職員の「安全・安心」に関わる研修等を年3回以上実施する。 (校務運営、防災担当)	②-1 中央高校の各課程及びしらさぎ中学校、地域と連携し、合同の研修会を実施し、学校全体が協働できる体制を構築する。(校務運営、防災担当)	②-1 スクーリング時における地震・津波と火災を想定した避難訓練を実施した。 3課程・しらさぎ中学校・地域と連携して実施した研修会では、外部講師による本校を取り巻く災害環境についての講演や実際に避難する際の体験を通した研修を行った。 (A)(校務運営、防災担当)	②-1災害時に教職員が冷静かつ適切に行動できるよう、避難訓練要領に従い、訓練を行った。生徒も真剣に参加できた。 (校務運営)	②-1通信制の特性上、すべての生徒が避難訓練に参加するわけではなく、また登校時以外に被災する可能性が高い。防災に関する訓練や啓発について検討する必要がある。 (校務運営)
	②-2 配慮や特別の支援を要する生徒への支援について共通理解を図り、指導力を養うために、特別支援研修会を年2回実施する。(人権・特別支援)	②-2 教育相談コーディネーターと教職員、スクールカウンセラー等が連携を図り、常に情報交換や相談を行い、配慮が必要な生徒への早期対応と個別指導の充実を図る。(人権・特別支援)	②-2 配慮や特別支援を要する生徒への支援について共通理解を図るため、特別支援研修会を年3回開き、ケース会も適宜実施した。 (A)(人権・特別支援)	②-2教員間で生徒について相談し合う機会を多く持つことができた。 (人権・特別支援)	②-2研修会をきっかけに普段から生徒の支援について教員間で話し合う雰囲気づくりに、これからの取り組んでいきたい。 (人権・特別支援)
	②-3 組織として校務運営がなされるよう、複数体制を整備し、	②-3 組織運営体制を定期的に点検し、職員朝礼を活用した啓	②-3 日々の観察による点検と職朝等の機会や回覧などで、情報	②-3各課や年次の情報共有や協力体	②-3業務の均等化や複数体制の整備により、組織

	人材育成ができる体制を構築する。 (校務運営)	発に努め、「報・連・相」を通して業務の共通理解と継続を図る。(校務運営)	提供・情報共有に努めた。 (B) (校務運営)	制は整っている。 (校務運営)	特別支援の研修については、どのような内容で行っていますか。	的に業務が円滑に継続できるように配慮する。また、世代を超えて協働する中で人材育成がはかれるような体制づくりをめざす。 (校務運営)
③	全教職員の業務内容や勤務状況、健康等を把握するため、面談を年3回以上実施し、点検や見直し・改善を図るとともに、メンタルヘルス等の研修を年1回程度実施する。 (校務運営)	③ 面談や観察を通して、全教職員の業務内容や勤務状況を点検し、見直しや改善を行うことにより、勤務の効率化とワークライフバランスの向上を図り、よりよい職場環境の実現を推進する。(校務運営)	③ 教職員の勤務状況や健康等を把握し、メンタルヘルスを維持できるよう、定期面談や不定期面談を行い、課題把握に努めた。また、積極的に年休取得を呼びかけ、ワークライフバランスの向上を図った。 (B) (校務運営)	③定期面談は2回であったが、随時個別の相談や保護者対応への同席し、一人で抱え込まないよう配慮した。 (校務運営)	③職員の方のメンタルヘルスの状況というのはどのような感じになりましたか。	③教職員それぞれの状況を把握し、早期に対応ができるよう、面談や日々の会話、観察を通して、適切に対応できるように心がける。 セルフマネジメントができるよう、アンガーマネジメント研修等のメンタルヘルス研修のさらなる充実を図りたい。 (校務運営)

3	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B		
学校の特色化、魅力化(めざす学校像)を推進する	①-1 スクールポリシーをHPに掲載し周知を図るとともに、実現を図るため、年2回の管理職による面談や学校評価アンケート等において、点検する機会を設ける。 (校務運営)	①-1 目標管理シートの作成時において、学校経営方針やスクールポリシーに基づいた目標設定を行うよう周知するとともに、面談時に助言を行う。(校務運営)	①-1 5月面談にて、目標設定や評価指標への助言を行い、学校経営方針等を共通理解した。学校評価アンケート結果を配布して、目標管理シート(最終)に反映させ、自己評価及び学校評価につなげた。 (A) (校務運営)	①-1学校評価アンケートは、生徒、保護者、教員を配布する際に、共通点や相違点を確認できるようにした。 (校務運営)	生徒が学校へ登校する日が少ない中で、生徒間の連携、教職員との信頼関係が構築される教育活動が展開されている。 教職員間での生徒の実態把握の連携がスムーズに実践されている。 ホームページの充実によって通信制教育の普及と理解を進め、中央高校ならではのアピールを行っていただきたい。	①-1年度当初だけでなく、機会を捉えてスクールポリシーや学校経営方針の周知や達成度を共通理解し、通信制の特性を活かした魅力について考える機会を設定することで、積極的な進路選択につなげていきたい。 (校務運営)
	①-2 学校開放の日、転入ガイダンス等の機会を生かし、スクールポリシーに基づいた説明を行う。 (教務、校務運営)	①-2 通信制生徒として、「自学自習」や「時間の管理」が重要であることを機会を捉えて、周知する。 (教務、校務運営)	①-2 学校開放の日、転入ガイダンスにおいて、スクールポリシーに基づいた説明を行った。資料の作成・配付により周知に努めた。 (A) (教務、校務運営)	①-2入学希望者に対して、スクールポリシーに基づいた説明を行うことができた。 (教務、校務運営)		①-2 通信制教育について正しく理解をしたうえで、入学してもらえるよう、引き続き周知に努めていきたい。 (教務、校務運営)
	②-1 学校開放の日を年間4回実施し、入学希望者や地域の方々に開かれた学校づくりを推進するとともに、学校ホームページの更新を月10回以上をめざす。 (校務運営、教務)	②-1 6月、11月に学校開放の日を実施し、通信制教育についての理解を深める取組を行うとともに、通信制課程の情報を積極的にホームページを活用して行う。(校務運営、教務)	②-1 4回の学校開放の実施と別日の希望者も合わせて、17組41名に学校見学・説明を行い、通信制教育への理解を深めることができた。また、学校ホームページは月平均14回更新し、生徒・保護者ともに100%が情報提供について満足・ほぼ満足であった。	②-1学校開放の日の実施により通信制教育への理解を深めることができた。また個別対応で不定期に説明を行った。積極的にHPや1人1台端末		②-1学校開放の日や学校見学、ホームページ等を通じて通信制教育への理解の拡充に努めたい。加えて、より見やすく、通信制の魅力をより発信できるホームページの充実をはかりたい。 (校務運営・教務)

		(A) (校務運営、教務)	末を活用し、情報提供・情報発信に努めた。 (校務運営・教務)	通信制課程の大きな魅力のひとつとして、学びなおしの授業が組まれていることがある。希望者は英数国を1年間学びなおしてから高校の学習に進めるという点をもっとアピールしても良いのではないか。不登校経験者や学習の機会を逃した人たちにとって、学びなおしができることが目に見えてわかり、安心して入学することができると思う。	
②-2 「特別活動時間」として認定できる行事を設定するとともに、参加について、掲示・郵送・ホームページ・呼びかけ等、複数の方法で周知するとともにデジタルメディアを積極的に活用する。(生徒・特別活動)	②-2 特別活動課教員や生徒会役員が中心となり、学校行事への積極的な参加を呼びかけるとともに、行事報告をホームページ等で行う。(生徒・特別活動)	②-2 文化祭や主権者教育講演会、遠足等について本科生全員に案内を郵送し参加者を募った。デジタルメディアに行事の予告を表示し積極的な参加を促したりホームページ上に行事の様子が分かる記事を掲載した。 (A) (生徒・特別活動)	②-2 郵送だけでなくICTを利用した視覚に訴える情報提供・情報発信は効果的であった。 (生徒・特別活動)	通信制課程の大きな魅力のひとつとして、学びなおしの授業が組まれていることがある。希望者は英数国を1年間学びなおしてから高校の学習に進めるという点をもっとアピールしても良いのではないか。不登校経験者や学習の機会を逃した人たちにとって、学びなおしができることが目に見えてわかり、安心して入学することができると思う。	②-2 通信制における行事の見直しや情報発信を工夫し、より多くの生徒が積極的に参加できるように改善する。 (生徒・特別活動)
③-1 保護者との連携の機会として、PTA役員会総会・個人面談や、PTA研修会(年2回)への参加者数が、10名程度をめざす。(総務)	③-1 「徳島中央通信」「今日のお知らせ」「HP」や家庭への案内文書の配布等、学校の諸活動について広報し、保護者の参加を促す。 (総務)	③-1 第1回目のPTA研修会は昨年度より参加者が減ったが、PTA役員会総会、個人面談、文化祭に向けてのPTA役員会への参加者数は、各課程10名以上が参加し、連帯感が生まれ、相互理解を深めることができた。 (A) (総務)	③-1 PTA会長を筆頭に役員が積極的に発案や協力をしたおかげで、学校行事も盛況のうちに終わることができた。 (総務)	PTA役員会の参加率が上がった理由を解明し、次年度に反映させてもらいたい。	③-1 次年度も同様に様々な方法で、学校行事を広報し、保護者の方々の学校行事参加を促したい。 (総務)
③-2 「生徒生活体験発表会」を企画し、様々な立場にいる人について知る機会を設け、発表者3名以上、視聴者20名以上をめざす。(生徒・特別活動)	③-2 7月に「生徒生活体験発表」・座談会を計画し、発表を聞くとともに、参加者が意見交換できる機会を設ける。 (生徒・特別活動)	③-2 発表者は全員出席し発表できた。視聴者は42名であった。それぞれの意見をまとめ、「中央通信」に掲載した。 (A) (生徒・特別活動)	③-2 生徒の体調や状況を慎重に観察し柔軟に対応する事で負担にならない配慮をした。 (生徒・特別活動)	教職員の連携には情報共有が大原則なので継続してもらいたい。	③-2 次年度も、各曜日ごとに体験発表会を実施し、他者の意見や背景を知り、共感したり意見を持つことで、誇りや自己肯定感、自己有用感等の育成に努めたい。 (生徒・特別活動)
③-3 すべての教育活動を通していじめや暴力の未然防止の取組を行い、いじめゼロをめざす。 (生徒・特別活動)	③-3 生徒の実態に応じた丁寧な対応を心がけ、人権尊重の精神に基づいた言語環境及び教室環境の適正化を図るとともに、いじめ防止の啓発を行う。 (全教職員)	③-3 「いじめに関する調査」を7月と12月に実施した。通信制の特性を考慮し、記名式で調査した結果、いじめの報告はなかった。 (A) (生徒・特別活動)	③-3 いじめは絶対に許されないことを教職員で共通理解を図り、指導した。 (全教職員)		③-3 生徒の実態把握と教職員間の共通理解を図り、生徒が安心して学ぶことのできる環境づくりを継続する。 (全教職員)
③-4 多様な生徒の実態把握に努めるとともに、個々の生徒や保護者の願いに応じたきめ細かな指導・支援を図るため、各種サポート事業を活用する。 (人権・特別支援)	③-4 必要に応じて、特別支援委員会(ケース会)等を開催し、教職員の共通理解を図るとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携する。 (人権・特別支援)	③-4 スクールカウンセラーをはじめ、スクールソーシャルワーカー、心と学習の支援員、進路の支援相談員等の方々と連携し、生徒の指導・支援を行うことができた。 (A) (人権・特別支援)	③-4 外部機関を含めた支援体制を構築し、幅広く丁寧な指導・支援を行うことができた。 (人権・特別支援)	スクールソーシャルワーカーは、通信制の場合、どのような関係機関とつながりを持っていますか。	③-4 今後も、個々の生徒や保護者の願いに応じたきめ細かな指導・支援を図るため、各種サポート事業を活用していきたい。 (人権・特別支援)

<p>④-1 生徒間の連帯感や地域との関わりを築くため、生徒会役員を中心に「あいさつ運動」や「ごみゼロ運動」を前後期に1回実施し、参加数10名以上をめざす。 (生徒・特別活動)</p>	<p>④-1 スクーリング（木・日）において、登校時に「あいさつ運動」、昼休みに「ごみゼロ運動」を実施し、共に学ぶ仲間としての連帯感を高めるとともに、通信制への理解を深めてもらう機会をつくる。 (生徒・特別活動)</p>	<p>④-1 登校時に「あいさつ運動」、昼休みに「ごみゼロ運動」を日曜日に1回ずつ生徒会長と教員で実施した。 (B) (生徒・特別活動)</p>	<p>④-1 生徒の体調や状況に配慮しながら、無理のない範囲で行った。 (生徒・特別活動)</p>	<p>いじめ問題についてはとてもデリケートな扱いになると思う、常時アンテナを張って、微妙な変化を察知することはとても大切だと思う。</p>	<p>④-1 生徒全員への周知を行ったり、参加を促したりして、参加率を上げ、活動を継続する。 (生徒・特別活動)</p>
<p>④-2 年間3回以上の学校運営協議会を開催し、学校と協議会が課題を共通理解し連携して、教育活動を充実できるようにする。 (学校運営)</p>	<p>④-2 通信制についての情報提供を行い、理解を深めてもらうとともに課題を共有し、協議会や地域の力を借りながら、充実した教育活動をめざす。 (学校運営)</p>	<p>④-2 年間3回の学校運営協議会を開催し、第2回では、各課程の防災担当者も参加し、防災に関する特徴的な取り組みや連携について発表し、理解を深めていただく機会を得ることができた。(A) (学校運営)</p>	<p>④-2 管理職だけでなく、各課程の教員も参加することで、学校での教育活動について、管理職以外の言葉で発信することができた。また、教員に学校運営協議会の様子も伝えることができ、多くの方々とともに自分たちが学校をつくっているという気概を持つてもらうことができた。 (学校運営)</p>		<p>④-2 今後も学校運営協議会の委員の方々や、PTA、同窓会等の関係者の方々と連携し、地域から信頼され愛される学校、生徒が学びたい、保護者が学ばせたいと思う学校として、通信制課程をより魅力あるものにするべく取り組んでいきたい。 (学校運営)</p>

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった